



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

26日

アジア時間からダウ先物が下落したことに伴ってリスクオフのドル買いが先行。欧州時間に入ってもドル高が進み、ドル円は一時105.06円まで値を上げた。一巡すると、米長期金利の低下などから104円台後半まで伸び悩んだ。

27日

ドル円は月末週とあって本邦実需勢から売りが持ち込まれた。欧州株の下落でクロス円が崩れたうえ、米長期金利の低下も売りに拍車をかけて一時104.39円まで売り込まれた。

28日

新型コロナウイルスの感染が再拡大し、欧州各国でロックダウン(都市封鎖)を実施する可能性が高まったことで欧州株が下落すると、クロス円の下げとともにドル円も104.11円まで値を下げた。「104.00円付近には本邦長期資金の買い意欲が強い」との声が聞かれたため、その後は104円台半ばまで下げ渋った。

29日

欧州株や時間外のダウ先物の下落を受けてドル円はクロス円とともに一時104.03円と9月21日以来の安値を付けた。ただ、対ユーロ中心にドル高が進むと円に対してドル買いが活発化。米長期金利が上昇に転じたことも手伝って104.73円まで反発した。

30日

株安を手掛かりとした売りや本邦輸出企業の売りが重なってドル円は一時104.13円まで急速に値を下げた。ただ、海外時間に入るとリスクオフのドル買いが優勢となったため104.74円まで切り返した。

総括

先週のドル円は下げ渋る展開となった。週明けこそ105円台に乗せる場面があったものの、その後は株安に伴うクロス円の下落につれて上値の重い動きに。何度も節目の104円割れに挑戦していたが、104円に観測されているまとまった買い注文をこなせず、全般ドル高が進んだこともあり、週末には104円台後半まで持ち直して取引を終了した。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	予想値	結果
26日	23:00	月	USD	新築住宅販売件数	年率換算	9月	101.1万件	102.5万件	95.9万件
28日	23:00	水	CAD	BOC政策金利	*	*	0.25%	0.25%	0.25%
29日	未定	木	JPY	日銀政策金利	*	*	-0.10%	-0.10%	-0.10%
29日	21:30	木	USD	GDP速報値	前期比年率	7-9月期	-31.4%	31.0%	33.1%
29日	21:45	木	EUR	ECB政策金利	*	*	0.00%	0.00%	0.00%
30日	19:00	金	EUR	GDP速報値	前期比	7-9月期	-11.8%	9.4%	12.7%
30日	21:30	金	USD	PCEコアデフレーター	前年比	9月	1.6%	1.7%	1.5%

一言コメント・・・7-9月期米GDP速報値は前期比年率33.1%増と予想の31.0%増を上回り、統計を開始した1947年以来最大の伸びを記録。ドル買いを誘いました。BOCとECBは市場予想通り政策金利を据え置きましたが、どちらも声明がハト派的な内容となりました。

先週の注目された要人発言

26日22:03 クドローNEC委員長「追加コロナ対策の合意には更なる歩み寄りが必要」「追加刺激策の話合いの進み方は遅いが終わってはいない」
 27日00:52 ジョーダンSNB総裁「スイスフランの過大評価はスイスの金融業界に問題を引き起こす可能性」
 28日23:00 BOC声明「経済が回復するにつれて、大規模金融政策の支援が引き続き必要」「2%インフレ目標の持続的達成のため政策金利を下限で維持」「現時点の予測では、政策金利維持は2023年まで継続」「量的緩和(QE)プログラムを継続し、上記のように再調整する」
 29日04:09 ペロシ米下院議長「経済対策巡る作業を止めていない」「上手くいけばトランプ米大統領は経済対策巡る交渉に戻ってくる」
 29日04:15 マクロン仏大統領「30日から全国規模でロックダウン(都市封鎖)措置を実施する」
 29日12:15 日銀声明「当面は新型コロナの影響を注視、必要なら躊躇なく追加緩和」「片岡委員、長短金利引き下げで緩和強化が望ましいとして反対」
 29日15:35 黒田日銀総裁「先行きの景気は改善基調をたどるが、ペースは穏やかなものになる」「新型コロナの影響を注視し、必要なら躊躇なく追加緩和」
 29日22:36 ラガルドECB総裁「回復の勢いは予想よりも早く失速」「短期的な見通しは明らかに悪化」「12月の理事会ではあらゆる手段を検討する」「ECBが12月に行動するというにほぼ疑いはない」

一言コメント・・・ラガルドECB総裁は理事会後の記者会見で「回復の勢いは予想よりも早く失速」「短期的な見通しは明らかに悪化」と述べたほか、「12月の理事会ではあらゆる手段を検討」「12月に行動するというにほぼ疑いはない」などと発言。次回会合での追加緩和を強く示唆しました。これを受けてユーロを売る動きが広がりました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
3日	12:30	火	AUD	RBA政策金利	*	*	0.25%		0.10%
3日	*	火	USD	米大統領選	*	*	*	*	*
4日	22:15	水	USD	ADP雇用統計	前月比	10月	74.9万人		70.0万人
5日	21:00	木	GBP	BOE政策金利	*	*	0.10%		0.10%
5日	28:00	木	USD	FOMC政策金利	*	*	0-0.25%		0-0.25%
5日	28:30	木	USD	パウエルFRB議長定例会見	*	*	*	*	*
6日	22:30	金	USD	非農業部門雇用者数	前月比	10月	66.1万人		60.0万人

今週の注目は・・・米大統領選

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認下さい

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。